

## COIL 授業と TP ワークショップの体験

【COIL 授業】私は東日本大震災についての授業を履修しました。授業では被災地のドキュメンタリー映画を見たり、漫画や文学を通して原発や核汚染がどう描かれているのかを学びました。特に漫画「美味しんぼ」については、スカイプを使って UCR の学生とプレゼンテーションの発表やディスカッションをしました。福島の商品への偏見や、政府が核に関する情報を隠していたことなど、たくさんの問題を知ることができ、海外の学生とディスカッションすることで、外から見た日本を知ることができました。

【学生ワークショップ】COIL 授業と一緒にディスカッションをした学生と UCI の学生とプレゼンテーションの発表を行った後、ディスカッションをしました。COIL 授業の時は画面越しに話していた UCR の学生と直接会えて嬉しかったです。「令和」をテーマにみんなでプレゼンテーションの発表を行ったのですが、海外の学生と令和について話すことで、他の国の人々が実際に新元号についてどう感じたのか知ることができてとても興味深かったです。日本のメディアは令和について肯定的に見ることが多かったのですが、今回アメリカの学生から海外のメディアが令和についてどう報道したのか、どうとらえたのかを聞くことで、令和について客観的に考えることができました。また、令和から掘り下げて、日本の政治、ナショナリズム、天皇制について改めて考えさせられました。



【TP ワークショップ】UCLA や外大の教授たちがプレゼンテーションを行い、その後で各テーマについて教授同士で話し合うワークショップを見学しました。学生同士でディスカ

セッションを行うことは大学の授業でもよくありましたが、教授同士のディスカッションを見学するのは初めての経験でした。テーマは様々だったのですが、どのプレゼンテーションも勉強になることばかりで、「この問題を考えるのにこういう切り口があるのか」と新しい発見もたくさんありました。私は大学で主にジェンダー論を学んでいるのですが、ジェンダー問題といってもさまざまな切り口があり、様々な分野から分析することができるのだと勉強になりました。ある特定の分野を勉強するのではなく、幅広く知識を見つけ、新しい角度で問題を考えることが大切だと感じました。これからの大学での研究に生かしたいです。

【その他印象に残ったこと】アメリカ人の日本人に対してのイメージがとても良かったことがとても印象的でした。UBERのドライバーやバスの運転手など、みんなに「日本人は礼儀正しく、嘘をつかない」と言われ、とても歓迎されました。UCRの学生にそのことについて聞いたときに、weeabooという存在について教えてもらいました。彼らは日本の文化に過剰に憧れており、その人のパーソナリティを見ずに日本人だというだけで近づいてくることが多いのだと教わりました。日本のイメージが一種のステレオタイプになってきてしまっており、これも新しい人種問題なのではないかと感じました。

今回のCOIL事業で、自分の視野がとても広がったのを感じています。海外に行き、現地の学生や先生から話を聞くことで、自分が今いる日本について客観的に見るできるようになり、新たな問題意識を持つことができました。この貴重な経験をこれからの学びにつなげていきたいです。

